

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：34519

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K10346

研究課題名(和文) うつ病合併妊婦に対する心理教育と対人関係療法の無作為化比較試験

研究課題名(英文) Controlled Clinical Trial of Interpersonal Psychotherapy Versus Psychoeducation Program for Pregnant Women with Depression during Perinatal Period

研究代表者

清野 仁美 (Seino, Hitomi)

兵庫医科大学・医学部・講師

研究者番号：20595417

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：我々は、無作為化比較試験にて周産期における心理教育、対人関係療法によるうつ症状の治療的効果を検証した。妊娠期において無作為に心理教育実施群、対人関係療法実施群に割付け、介入を実施した。評価としてEPDS、PHQ-9、HADS、SDSを、介入前、介入後にて実施し、各評価尺度のスコアの群間比較、経時的変化の評価を行った。介入群の比較では対人関係療法群において介入後のHADS-D ($p=0.002$)、SDS($p=0.01$)、PHQ-9($p=0.002$)で有意な改善を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本人うつ病合併妊婦のうつ症状の改善に対人関係療法が有効である可能性が示唆された。一方、不安症状のスコアは対人関係療法群、心理教育群ともに改善が得られており、いずれの介入も有効である可能性が考えられた。

研究成果の概要(英文)：We conducted the study to compare the effectiveness of IPT and the psychoeducational program (PEP) in treating women with perinatal depression ($n = 20$) during their antepartum periods of pregnancy were randomly assigned to IPT or psychoeducational programs (PEP) groups if they met DSM-5 criteria for major depressive disorder. To assess the effectiveness of each intervention, the following four psychometric tests were conducted before and after intervention: Edinburgh Postnatal Depression Scale, Patient Health Questionnaire-9, Hospital Anxiety and Depression Scale, and Self-Rating Depression Scale. Pre-intervention assessments indicated no significant group differences for any of the recorded clinical characteristics. Although none of the psychometric test scores differed significantly between IPT and PEP groups before intervention, post-intervention assessments revealed significantly greater clinical improvements in the IPT group on the HADS-D ($p=0.002$), SDS($p=0.01$), PHQ-9($p=0.002$).

研究分野：周産期メンタルヘルス

キーワード：うつ病 妊婦 対人関係療法

1. 研究開始当初の背景

本邦において、妊産婦のメンタルヘルス向上にむけ、母子保健領域での様々な取り組みが行われているが、精神障害を有する妊産婦に対する精神科治療、介入方法についてはいまだ確立されていない。しかしながら、周産期における精神科治療では、リスク-ベネフィットの観点から、薬物の使用は極力控えるべきであり、非薬物療法である精神療法が第一選択的治療となる。実際に欧米諸国では、心理教育、対人関係療法、認知行動療法などの精神療法の有効性が報告され (Spinelli MG, J Clin Psychiatry. 2013)、主に軽症～中等症のうつ病に対し推奨されている。

心理教育は、気分障害における再燃予防効果が確認されているため、うつ病合併妊婦の再燃予防や産後うつ病の発症予防に対しても同様の効果が期待される。国内において妊産婦のメンタルヘルスに対する心理教育的介入についての前方視的研究はほとんど行われておらず、また無作為化比較試験による有効性を検討した研究はない。国外では、産後うつ病を防ぐための教育プログラムがいくつか開発されており、それぞれの有効性を示す結果が報告されている。近年では、第1子出産後の中国人産婦に対する出産後教育の無作為化比較試験なども報告されている (Gao LL, Int J Nurs Stud. 2010 Oct;47(10):1208-16. Epub 2010 Apr 2)。メタ解析によっても、予防プログラムによって産後うつ症状の改善が得られることが示されているが (Jané-Llopis E et al. Br J Psychiatry. 2003 Nov;183:384-97. Review.)、いずれも一般の妊産婦を対象としており、精神疾患合併妊産婦を対象としたものはない。

対人関係療法は、米国でクラマンらによって開発され、アメリカ精神医学会の治療ガイドラインでもうつ病に対する有効な治療法として位置づけられている。この治療方法では、「重要な他者(自分の情緒に最も大きな影響を与える人)」との「現在の関係」に焦点を当て、コミュニケーションのパターンなどに注目することにより、対人関係全般を改善することが期待される。この治療は短期精神療法に分類されるが、その効果は長く維持されることが臨床研究により明らかになっている。欧米では周産期のうつ病患者に対する対人関係療法の効果について検証が行われ、メタアナリシスにおいても有効性が示されている。

元来、周産期の女性の心理は文化的・社会的影響を過分に受けるものであり、日本人女性においても、これらの心理教育、精神療法が有効であるかを検証し、本邦でのうつ病合併妊婦に対する非薬物的治療・介入方法を確立する必要がある。

2. 研究の目的

我々は、日本人うつ病合併妊婦を対象とした周産期における非薬物療法の有効性を明らかにするため、無作為化比較試験にて周産期における心理教育、対人関係療法によるうつ症状の治療的効果を検証した。

3. 研究の方法

兵庫医科大学病院にて周産期管理を行ううつ病合併妊婦のうち、本研究の主旨に対する理解と同意が得られた者に対し、妊娠期において無作為に心理教育実施群、対人関係療法実施群に割付け、各16回の介入を実施した。同様に研究に対する同意が得られ、年齢を一致させた精神障害の生涯罹患のない健常妊婦を対照群とした。評価として、自己記入式評価尺度 Edinburgh Postnatal Depression Scale、Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)、Self-Rating Depression Scale (SDS) および精神科医による客観的評価を、介入前、介入後、産後1週間、産後1か月に実施し、各評価尺度のスコアの群間比較、経時的変化の評価を行った。

4. 研究成果

3群間の年齢、出産回数、結婚歴、喫煙、飲酒、教育年数、勤務形態はいずれも有意差はみられなかった。脱落率は各介入群30%で有意差は認めなかった。介入群の比較では対人関係療法群において介入後の HADS-D ($p=0.002$)、SDS ($p=0.01$)、PHQ-9 ($p=0.002$) で有意な改善を示した。健常群と比較し対人関係療法群、心理教育群とも、妊娠合併症や児の合併症の発生率は健常群との有意差

を認めなかった。日本人うつ病合併妊婦のうつ症状の改善に対人関係療法が有効である可能性が示唆された。一方、不安症状のスコアは対人関係療法群、心理教育群ともに改善が得られており、いずれの介入も有効である可能性が考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 清野 仁美 松永 寿人
2. 発表標題 妊産婦のうつ・不安に対する精神療法
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清野 仁美
2. 発表標題 妊産婦のニーズに寄り添う多職種支援のために~精神科医の見立てと伝え方~
3. 学会等名 第34回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seino H, Kokai M, Matsunaga H.
2. 発表標題 Effectiveness of interpersonal psychotherapy for Japanese women with perinatal depression and anxiety
3. 学会等名 International Marce Society Conference, Virtual (Iowa City, US) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seino, H
2. 発表標題 Effectiveness of interpersonal psychotherapy for perinatal depression in Japan: a pilot study
3. 学会等名 8th World Congress on Women's Mental Health (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	湖海 正尋 (Kokai Masahiro) (70258143)	兵庫医科大学・医学部・特別招聘教授 (34519)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------